



## まちづくり団体の取り組み ～ こんなことやってます～

県内各地域におけるまちづくり団体の活動を紹介するコーナーです。今回は、「水戸女性フォーラム」の取り組みをご紹介します。

### 水戸を何とかしたい

県都水戸は、人口約24万、水戸徳川家の城下町として、歴史的・文化的資産と自然に恵まれ発展を続けてきました。平成2年には市政100周年を記念し、地方都市では屈指の水戸芸術館が完成、より充実した文化都市に向けての環境整備がなされると共に、平成5年の水戸駅北口の市街地再開発、12年の赤塚駅再開発、さらに現在は、南町千波大橋線や水戸南口周辺の整備事業など、都心機能の強化や交通基盤の整備が進められています。

その一方でモーターゼーションの進展や商業構造の変化等の要因により、中心市街地の空洞化が深刻な問題になっています。

このようななか、「水戸女性フォーラム」は今年5月「活動をとおしてまちづくり提言集」第7集を発行しました。生活者の視点から、「私たちの住みたいまち」をテーマとし、研修会やワークショップを何度も重ね、1年間の活動を中心市街地活性化の提言としてまとめたものです。

### つくられたまちから自分たちで創るまちへ

この提言は、下記の柱ごとに、交通・景観・施設など、各分野の提案がまとめられています。

#### 【水戸女性フォーラムの提言】

安全でやさしいまち（道路と住まいのバリアフリー）  
美しいまち 水戸をめざして  
にぎわいのまち～楽しみ！ときめき！やさしさ！  
交通の利便性～楽しみ！観て歩く！回遊！  
歴史と文化の薫るまち  
まちの顔・駅の考察

（ペDESTリアンデッキを点検する）

例えば、「交通の利便性」では、西の谷地区を中心市街地の核とした循環コースを提案し、定額の循環バスの運行や、公営駐車場を活用して回遊性のあるまちづくりを提案しています。

また、「安全でやさしいまち」では、道路と住まいのバリアフリーを目指し、国道50号線等を車椅子やベビーカーを押してウォッチングして点検、歩道橋と横断歩道にも注目しアンケート調査により実態を把握すると共に、商店街関係者と意見交換を行い、「中心市街地は車中心の道づくりから歩行者中心へ転換が必要」と川又書店前及び中央郵便局前の

歩道橋の撤去を提言しています。これら提言は、会員自ら何度も足を運んで調べ、数々の文献資料を勉強し、会員相互の議論を経てまとめられたもので、普段何気なく見過ごしていた通りや建物、街並みに対し、課題を突きつけ具体的で説得のある真摯なまちづくり提言になっています。この提言集は水戸市をはじめとする関係機関に提出されるとともに、9月28日、29日に行われた「日本女性会議2001みと」でも多くの人の目にとまりました。

### 雨滴石を穿つ

平成4年水戸市が女性の視点を市政に活かすことを目的に開設した「女性大学」の修了生有志が翌年結成した会、それが、「水戸女性フォーラム」ですが、行政に頼らない自主的なまちづくり活動団体として、現在会員は58名、環境部、福祉部、観光部、文化部と4部会編成とし、提言集、情報誌の発行、観光・景観ボランティア活動等を積極的に展開しています。平成12年度は地域づくり団体全国協議会が選定する全国の「地域づくり団体100」にも選ばれました。

「これまでの活動は『雨滴石を穿つ』の例のように忍耐強く進めてきましたが、今後も「人にやさしいまち・まちにやさしい人へ」を合言葉に行政・企業とのパートナーシップを図りながら活動を実践していきたい」と会長の大沢さんは明るく話してくれました。

（問い合わせ先：水戸女性フォーラム会長  
大沢さん 029-247-6500）



何度もまちウォッチングを重ねました